



施設が地域を 考える 4

予防から介護まで、豊かな地域社会をめざして
「地域の介護予防の拠点『ふれあい楽舎』」活用による取り組み

滋賀県・社会福祉法人 近江ちいろば会
ふれあいの家おしどり
管理者 木内 重雄

法人概要

| | |
|--------|---|
| 法人設立年 | 平成6 (1994) 年 |
| 法人実施事業 | 経営施設数：16 種類ごとの経営施設・事業： ケアハウス1、グループホーム2、小規模多機能型居宅介護1、通所介護6、ヘルパー1、訪問看護1、居宅介護支援センター2、通所総合事業2 |

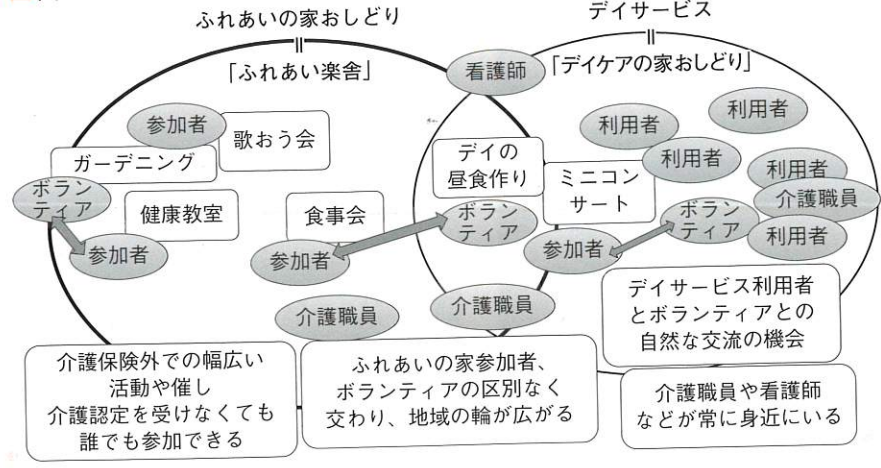
地域の概要

| | |
|-------|---|
| 場所 | 滋賀県湖南市菩提寺 |
| 人口 | 湖南市の人口 55,000人 内行政区・菩提寺の人口 12,000人 |
| 高齢化率 | 25% |
| 地域の様子 | 湖南市は滋賀県南部に位置し、大阪や名古屋から100km圏内で、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点です。 菩提寺地域は、旧の集落と、ほぼ40年前に開発された閑静な住宅地が共存しています。団塊の世代が多く急激な高齢化が予想されます。 |

始まりは昼の食事会の集まり

「住み慣れた場所や自宅で今の生活をいかに続けていくか」というのは、介護予防の大きなテーマの一つです。これを実現するためには、人とのつながりや交流をもつこと、出かける場所があること、役割を発揮できることなどが重要な要素であると考えています。「ふれあいの家おしどり」（以下、ふれあいの家）では、このようなニーズに応えるべく、地域における介護予防を

図 活動の特徴



目的とした活動を幅広く行っています。なお、この介護予防とは地域でのふれあいの家の活動をさし、介護保険における介護予防・日常生活支援総合事業とは別のものです。

ふれあいの家の活動の始まりは、平成14年にさかのぼります。滋賀県湖南市の菩提寺地区は、昭和40年代に京都や大阪からの別荘地として開発され発展しました。その当時から住み続けてきた住民の方の多くは高齢化し、高齢者の一人暮らしや夫婦世帯が増えています。街までの交通手段もあまりなく、地域では高齢者の閉じこもりが懸念されていました。この閉じこもり予防を目的とした「多くの方といっしょに気軽に昼食をとりに来られる場所」として、一軒の空き別荘を利用して近隣住民のボランティアが主体となって食事会を開くようになったのが、ふれあいの家の始まりです。

このふれあいの家は、同じ敷地内にあるデイサービス「デイケアの家おしどり」と相互一体関係で利用者は自由

介護予防の拠点「ふれあい楽舎」

長年の活動により、ふれあいの家の存在や活動内容が地域へ口コミで広がるようになりました。より多様なニーズに応えるため、平成28年1月に新たに活動の拠点をづくり、その建物を「ふれあい楽舎」と名づけ、地域の方がより参加しやすい環境づくりを行いました（写真1）。

活動① 誰でも気軽に参加できる 集まりの開催

地域に向けたふれあい楽舎の活動や行事は、年々充実してきています。現在では、音楽会・カフェ・ウォーキングを週に一度（写真2）、健康教室・歌おう会・食事会・映画会・習字教室・洋裁教室を月に一度行っています。音楽会やカフェなどはボランティアの



■写真4



みんな真剣に話を聴きます

■写真3



栄養満点で見た目も華やかな手作りの松花堂弁当

■写真2



正しい姿勢で大またで歩くとかなりの運動量です

■写真1



デイサービスの真向かいの建物です

ふれあい楽舎
「ふれあいの家おしどり」

デイサービス
「デイケアの家おしどり」

支援で成り立ち、健康教室・食事会・歌おう会などは、看護師や管理栄養士などのデイサービス職員が主体となつて催されています(写真3)。健康教室には地域のドクターを招くこともあります。

これらはすべて介護保険外の活動です。誰もが気軽に参加できます。歌うことや音楽が好きな人は音楽会へ、映画好きの人は映画会へ足を運ばれます。健康教室で地域のドクターが講演される日は、会場が満員になるほどです(写真4)。そして、これらの行事にはデイサービスの利用者も気軽に参加できます。ですから行事・活動を通じて、地域の方とデイサービスの利用者、職員とが互いになじみの関係を自然に築いていくことができます。

活動② デイサービスとかわりながら のボランティア活動

ふれあいの家の活動開始当初からあるもう一つの大きな取り組みが、ふれあい楽舎の活動や行事の利用者がデイサービスにおいてボランティア活動を

行うことです。「人それぞれの趣味や特技を活かすことで個々に生きがいがある」という考えの下、デイサービスの昼食作りや敷地内のガーデニング活動などをふれあい楽舎の利用者が行っています。食事作りは月に1回、数回、ガーデニングは月に2回でボランティアとして気軽に参加でき、職員も活動に適宜かわっています。

また、活動①についても、ボランティアとして携わる人が、別の行事に参加者として出席することもできます。ある日はボランティア、またある日は催しに参加する人というように、自由な形で活動に参加できるのです。

気軽な行事参加から 介護保険の利用へ

一般的な話ですが、デイサービスに対して地域住民が抱いているイメージとして「まだ自分には関係のない別世界」「仕事の邪魔になりそうで行きにくい」などといったことがあるのでは

ないでしょうか。ところが、気軽に参加できるふれあい楽舎があることで、「いつもこの前を通っていたけれど、こんなところやったんかあ。もっと早くに来てみたらよかったわ」などの声が地域の方からあり、デイサービスの存在が身近に感じられているようです。また、一人暮らしで家に閉じこもりがちとなっている、安否確認が必要な「要支援予備軍」の方にとっても、外出のきっかけになっています。

このように、ふれあい楽舎を通じて地域の方とデイサービスとの間になじみの関係ができていくため、地域の方がいざ介護認定を受けるとなったときに、デイサービスの利用にスムーズに移行できたケースがいくつもあります。介護保険についての相談もよく受けるようになりました。

ふれあい楽舎がある利点は、介護認定を受けて介護保険を利用することで生じる環境の変化を最小限にできることです。ある方は「ここがあつてほつとしました」と安心されていました。

通い慣れた場所、なじみの仲間や職員が存在により、ふれあい楽舎↓介護予防のデイサービス↓一般型のデイサービス(デイケアの家おしどり)という利用の流れが自然に成立しています。

地域のよびかきネットワーク

地域とそなかで運営されるデイサービスは、本来もつと密接な関係でなければなりません。しかしスムーズに事が運ぶケースばかりではありません。ふれあい楽舎の存在は、そうした地域とデイサービスとの関係を円滑にする潤滑油のような役割を果たしています。今後は、地域の方が集会所に集うかのようにふれあい楽舎を利用される現在は職員主体で行っている企画が住民主体へ移行し、さらに地域の介護予防の活性化につながっていくことでしょうか。何かあつたら(何かなくても)、「そうや、ふれあい楽舎に行つてみよう!」と思ってもらえるような地域のよりどころをめざして活動を広げて行きたいです。